



ロケ地の舞台裏

撮影を支える神栖の人々



①息栖にぎわいテラスで「いばらき推し」の撮影 ②映画「弱虫ペダル」のほか数々の撮影がおこなわれている息栖神社 ③日川浜海岸と風車は人気の撮影スポット
④ドラマ「ライオンの隠れ家」の聖地巡礼の一つになっている1000人画廊の壁画
⑤映画「甦える大地」の舞台となった鹿島臨海工業地帯 ⑥長期のロケではロケ弁が大きな楽しみとなる(写真：(有)オオサカヤ提供 ※特別注文仕様)

多くの映像作品のロケ地となっている神栖市。話題の映画やドラマ、CMの舞台となることも珍しくありません。今回はロケを支える市の取り組みから、市民の皆さんから聞いた舞台裏のエピソードまでご紹介します。

ロケを呼び込み、支援する

皆さんは映画やテレビ番組、ミュージックビデオなどを見ている時、「おや、見覚えのある場所だな。もしかして神栖かも？」と思ったことはありませんか？ ロケは原則として非公開でおこなわれるため、放送を見てから気付くことも多いものです。

市では、ロケをスムーズに進めるため、ロケ地や業者の情報提供など幅広い支援をしています。その案内の入口となっているのが、かみすフィルムコミッション（観光振興課）です。市内には、長い海岸線や広い砂浜、砂丘、風力発電施設、1000人画廊、工業団地、貨物駅など、ロケ地として魅力的な場所がたくさんあります。時には「警察署のように見えて、ロケに使える建物はないか」といった問い合わせもあり、想像力を働かせながらロケ地の

ポスターを掲示して、参拝客にロケ地の話をしたり、自転車飾りがついたお守りを置いたりして、神社のPRにつなげました

2021年10月にはTBSテレビ「世界ふしぎ発見！」のロケがおこなわれ、元氏子総代会会長の太塚光男さんが案内役で出演しました。



太塚さんと根本さん

「撮影前に約2時間かけて境内を回りながら、由緒やご祭神、パワースポットなどをミスリーハンターに案内し、リハーサル1回ですぐに本番スタートとなりました。放送時間は約20分。自分が出た番組を見るのは照れくさいですね」

大塚さんは7年間にわたって、息栖神社のメディア対応や来訪者への説明役を担ってきました。古事記をはじめ、書籍を何冊も読み込んで自分のガイドブックを作成。ロケでもその徹底した準備と経験が生かされました。

映画やテレビ番組の反響は大きく、二人は「メディアのおかげで参拝客が増え、神社をきれいに整備して、

紹介をしています。

ロケには大勢の市民の皆さんも協力してくれています。そこで今回は、今だから話せる裏話や思い出話を聞いてみました。

注目を浴びる息栖神社

最初に訪ねたのは息栖神社です。近年の東国三社巡りや御朱印ブームが追い風となり、ここ数年の間に映画、テレビ、新聞、旅行雑誌などに129件も登場しています。2020年2月には、人気漫画を原作とした映画「弱虫ペダル」の自転車で競争するシーンが、二の鳥居から一の鳥居の間で撮影されました。息栖神社業務員の根本孝代さんは、次のように振り返ります。

「総勢約70人、バスやトラックが何台も来ていたので、撮影に気付いて見学に来た方もいます。2020年8月に劇場公開され、私も孫たちと喜んで見に行きました。社務所に

にぎわいを呼ぶことができました」と話してくれました。

ローカルコンビニのロケ弁

次に、ロケ弁の話を聞こうと、ビジネス旅館・コンビニ・弁当店を営む有限会社オオサカヤ代表取締役の大坂恒平さんを訪ねました。初めてロケ弁を配達したのは、まだ大学生の時。砂浜でミュージックビデオのロケがあり、波が来るたびに砂がさらわれて、ドラムセットが少しずつ沈んでいったのをよく覚えているそうです。

約40年前に開店した店舗は「ローカルコンビニ」として再注目され、2019年には映画「ひとよ」のロケ地にもなりました。「主人公の少年期の回想シーンを撮影し、監督さんの一声で私の父が店員役で出演しました。映画に登場したのはわずか1、2分でしたが、今もDVDを大切に保存しています」

その頃からロケ弁の注文が増えていきました。「長期間、移動をしながらロケをする間、楽しみといえ



大坂さん



「ロケーションジャパン大賞」のノミネートを記念して作成